

平成十四年五月から七月にかけて、グラウンドの西側に仮設校舎の建設を行いました。中廊下左右教室二階建てのプレハブ校舎で、一年生のホームルーム・特別教室・準備室（理科四科・家庭科・社会科）等が入ります。理科棟でそれまで行っていた授業等にできるだけ近いものを実現するため、設備整備を心がけました。

引越後は後の工事との関連で、一学期末の生徒のいる間に行わなければならず、プレハブ工事との日程調整が大変でした。

また、理科には、貴重な動物の剥製や、歴史的な機具等が数多くあり、保存しておく物と捨てる物との見極めや、捨てる際の廃棄物処理等、普段では考えられない難問題もありました。しかし、結果として、生徒・教職員の一致した力で引越しも無事終了し、夏休みを迎えることができました。

理科棟の

改築について

事務部長 岡田千代子

同窓会の皆様には本校の施設設備の充実につきましていつも様々に御配慮をいただきまして有難うございます。

さて、理科棟の改築でございますが、ただ今、十一月末の完成に向けて工事が順調に進んでいるところでございます。今までの経緯をお知らせいたします。

一、仮設校舎の建設

二、理科棟の解体工事

八月から九月には思い出多い理科棟の解体が行われました。まず、全体に仮囲いが設置され、工事現場と日常生活の場とが区分されました。解体は校舎内の設備の撤去から始められ、丁寧に工事が進められました。九月に入り、くすの木祭ではその間工事は休止してもらい、万々に備えました。くすの木祭の来校者は三万人余りとなり、人気の水泳部のシンクロには、長い人の列が仮囲いを巡りました。

三、埋蔵文化財発掘調査

十月から十二月にかけて、川越城跡の発掘調査が県文化財保護課



理科棟跡発掘現場

・埋蔵文化財調査事業団により行われました。重機での掘削に始まり、人力による作業で徐々に堀跡が現れてきました。堀跡は当初考えられていた西側ではなく、理科棟のほぼ中央左寄りでありました。今回発掘の行われる様子を目の当たりにすることができ、学校が文化財の上に建っていることが実感できました。

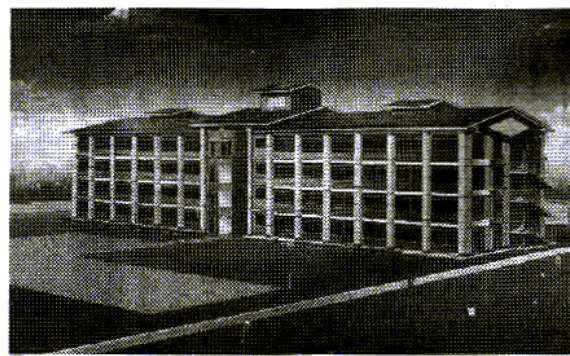
発掘現場は、授業中生徒が見学し、生きた教材として活用されました。また、PT会や近隣の方も多く見学に訪れました。

四、理科棟建設

十五年一月から本格的な工事が始まりました。

まだ、地中から一階の土台作りの段階ですが、どんな建物になるか楽しみです。完成予想図を掲げておきました。新理科棟は川越の街並みにマッチした蔵造り風の外観と、環境や障害のある方に配慮

した建物になる予定です。今後とも生徒が勉学や部活動に生き生きと取り組めるよう施設設備の充実を図っていきたく存じておりますので、同窓会の皆様の御支援御協力をお願い申し上げます。



新理科棟完成予想図